

25

## サルも人も愛した写真家

松岡史朗さんは青森県の下北半島にすむサルの写真を撮ることをライフワークにしています。いつも出会うサルに名前をつけている松岡さん。サルたちも警戒せずに写真を撮られます。しかし、村の人たちにとっては、サルたちは畑の野菜を盗む悪い悪者でした。サルの被害が深刻になり、ある日、松岡さんのところに役場から連絡が来しました。



松岡史朗さん



サルのハナビ

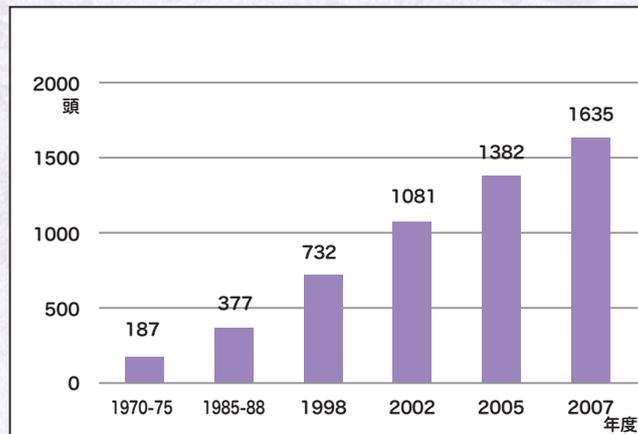


## 「北限のサル」と人が 共に暮らすには？

青森県下北半島のニホンザルは、世界最北の地に生息するヒト以外の霊長類として「北限のサル」と呼ばれています。1970（昭和45）年に、野生状態の保護を目的として国の天然記念物に指定されました。

1960年代から餌付けなどで個体数が増加した北限のサルは、1970年には200頭足らずだったのに、2005（平成17）年には1382頭まで増え、行動範囲が拡大。収穫直前の農作物が食べられたり、人家の屋根を歩行し、ガラスを割って侵入されたりする被害が相次ぎました。

### 下北半島ニホンザルの生息数の推移



（出典：青森県自然保護課）